



第五章

生野鉦山

いくの

開坑1200年の歴史

日本でも有数の銀山として知られる生野鉦山は、大同2年(807)に開坑したと伝わっています。

『銀山旧記』によれば、天文11年(1542)に城山の南表で銀鉦脈が発見されたのをきっかけとして、但馬守護・山名祐豊が、石見銀山から当時の先進技術を導入して採



明治期に建てられた職員宿舎は一般公開されている。

掘を始めたこと記されています。以後、山名氏から織田信長、豊臣秀吉、徳川家康へと経営が移管し、時の支配者の直轄地として銀山開発が盛んに行われました。

江戸時代には生野奉行所が置かれ、享保元年(1716)に生野代官所へ変わると、以後、28代の代官が任務に就きました。

生野で採掘された銀は、朝鮮の綿布や中国の絹と交換貿易されるなど、日本の代表的な輸出品として海外からも注目されるようになりました。天下の台所・大坂の貨幣経済や文化にも大きな影響を与えています。

中でも出鉦量の多い坑道には、生野奉行所から「御所務山」の称号が与えられ、これを祝して山師(鉦山の経営者)は、「御見石」の山車

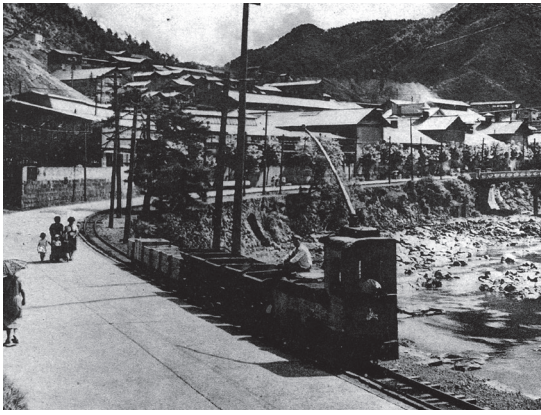
COLUMN

生野義挙(生野の変)

文久3年(1863)10月の生野義挙(生野の変)の事跡を後世に伝えるため、昭和15年(1940)に代官所跡地に碑が建立されました。生野の変は勤王の志士と但馬の農民が一緒になって生野代官所を占拠した事件です。わずか3日で破陣となり、明治の世まで生き延びた者は数人にすぎませんでした。この生野義挙は明治維新の先駆けとなったといわれています。生き延びた人物の中には、京都府知事の北垣国道や実業家で知られる原六郎がおり、明治の近代化に貢献しました。



生野鉦山全景。世界の最新技術を備えていたため、全国各地から視察に訪れた。(明治9年頃)



市川沿いのトロッコ道を走る電気機関車(大正9年頃)

を引き回しました。当時は銀山七か町といわれ、7つの町が銀山と密接な関係を保ちながら発展してきました。

日本最初の官営鉱山

明治元年(1868)9月、生野鉱山は日本最初の官営鉱山となりました。日本の近代化を牽引する模範鉱山となったのです。

フランスから御雇外国人と呼ばれる鉱山技師や、新政府の有能な人材が生野に集いました。

中でもフランス人技師・コワニエと、薩摩出身の鉱山局長・朝倉盛明は、世界に誇る壮大な鉱山開発を計画し、生野鉱山の発展に多大な貢献をしました。西洋から最新の鉱山



COLUMN

生野にあった異人館(外国人宿舎)

明治維新の後、日本初の官営鉱山となった生野鉱山には、御雇外国人と呼ばれる鉱山技師たちがフランスから訪れました。明治5年(1872)、生野には5棟の異人館(外国人宿舎)が建設され、彼らはここで生活をしました。また、現在も残る一区公民館(旧生野警察署)は、これらの洋風建築を模して日本人が建てたもので、生野の洋風文化を今に伝えています。



生野にあった異人館(外国人宿舎)、奥側がムーセ旧居

設備が導入され、明治9年、世界でも有数の近代的な鉱山工場群が誕生しました。コワニエは教育にも力を入れ、明治2年に開設された生野鉱山修学実験所(後の生野鉱山学校)の教授も兼任しています。

この時、鉱山施設、動力用水路、鉱石輸送路、職員宿舎などが市街地と融合して建設され、全国でも珍しい独特の鉱山町を形成しました。

明治22年に宮内省御料局の所管となり皇室財産に編入。明治29年には三菱合資会社へ経営が譲渡され、昭和48年(1973)の閉山まで日本の鉱業振興の中核を担いました。

ピーク時の昭和30年には人口1万1083人を数え、操業時の坑道は深さ880メートル、総延長は約350キロ、採鉱した鉱石の種類は70種以上にも及んでいます。

生野には鉱山施設やトロッコ軌道跡(鉱山鉄道)など、今でも数多くの産業遺産が残り、一般公開されている建造物も多くあります。

史跡生野銀山

昭和49年に観光施設として(株)シルバー生野が開業し、一部が観光坑道として一般公開されています。全長約1キロ、往復約40分の内部は採鉱作業を再現し、近世から近代までの移り変わりを分かりやすく紹介しています。

また、毎日1回・13時30分からのボランティアガイドと巡るツアーも人気があり、より詳しく生野銀山の歴史を知ることができます。

平成19年(2007)には、銀鉱脈が発見されてから1200年を迎え、「生野銀山開坑1200年事業」が盛大に行われました。

さらに、平成23年3月には、施設内にある「生野鉱物館」が「生野銀山文化ミュージアム」としてリニューアルオープン。鉱山の歴史や地域文化についてのパネル展示の他、800点以上の鉱物標本を公開しています。



石組みで築造された観光坑道入口(金香瀨坑口)



史跡生野銀山の観光坑道(シルバース生野)



奥銀谷 おくがなやMAP



江戸期に発展した奥銀谷にはうだつを掲げた白壁、格子窓の旧家といった町家が残る。周辺には、山師といわれる鉱山経営者たちも住んでいた。



市川に点在する「洵(ゆ)り池」跡。汰物師(ゆりものし)という女性たちは、この穴に溜まった石くずを選別して、少しでも生活の足しになるように売っていた。



国道429号沿いの山肌にある江戸時代の坑道跡。手堀りによるもので、至る所で見られる。



道の駅 フレッシュあさご

播但連絡有料道路のサービスエリアとして、また、国道312号から3分という位置にある道の駅です。地元農産物や名産品の販売コーナーやレストランなどがあります。

【所】兵庫県朝来市岩津96
【時】8時40分～20時、レストラン：9～20時(L.O19時25分)
【休】無休 【問】079-670-4120



黒川温泉 美人の湯

美人の湯として知られている日帰り温泉施設。お食事処も併設している、ポタン鍋や生野ハヤシライスを楽しむこともできます。

【所】兵庫県朝来市生野町黒川457-1
【時】11～20時(5～9月)、11～19時(10～4月) 【休】水曜(祝日の場合は営業)
【料】大人600円、小学生300円、幼児(0歳～)100円 【問】079-679-2067

近隣ガイド

史跡生野銀山 観光坑道 - DATA -

1,200年前の銀発見から昭和48年の閉山に至る歴史を伝える「史跡生野銀山」は、地底に繰り広げられた壮大な文化遺産。坑道内は年間約13℃と涼しく、約1キロに渡り明治以降の近代的坑道と江戸時代以前の手掘り跡を同時に見学できます(※団体客には無料ガイドあり・要予約)。さらに広大な銀の露天掘跡、鉱山資料館、吹屋資料館、生野銀山文化ミュージアムなど、見所いっぱい！

- ◆兵庫県朝来市生野町小野33-5
- ◆大人900円・中高生600円・小学生400円・小学生未満無料
- ◆4～11月：9～17時(※冬季は変動あり)
- ◆年末年始・12～2月のみ火曜休館(祝日は翌日)
- ◆毎日1回、13時30分より無料ガイド案内あり
- (問) 株式会社シルバー生野 079-679-2010

